

たばこによる健康への

子どもたちに対する禁煙教育が

あなたも考えてください

なぜ喫煙の習慣が付いてしまったのでしょうか

こうした結果から分かるように、子どもはたばこが嫌いなのです。自分自身は吸わなくても、受動喫煙による健康被害が重大なことは、今ではよく知られています。特に、大人に比べて、成長過程にある子どもはたばこの害を受けやすいのです。大人はもっと気を付けなければいけ

ません。青少年がたばこに手を触れないように、社会もサポートしましょう。たばこを吸うことは、決してかっこいいことではないということを教えていかなくはなりません。小中学生の時はたばこの煙が嫌いだったのに、大人になつたらヘビースモーカー。どこに原



たばこの害から守り子どもの健全な成長を（昨年の前橋シティマラソン）

因があるのでしよう。喫煙者の皆さんは、たばこを吸うように

なつたきっかけは何だったのか、思い出してみてください。

禁煙の訴えがきっかけに

「もうやめてほしい」と両親にお願い

これら保健委員会での調査結果は、学校が発行する「保健だより」に報告内容を掲載して、各家庭へ配布されているとのことでした。

ることができた人もいます。また、禁煙の体験談を正直に語ってくれた両親もいるとのことでした。

生徒たちの中には、両親に禁煙を訴え、実際にたばこをやめ

自分の子どもからの訴えをきっかけに、禁煙する人も多いのではないのでしょうか。

乳幼児の誤飲は恐ろしい

普段から気を付けなくてははいけません

たばこの害は本人の喫煙、周りの人からの受動喫煙だけではなくありません。たばこの吸い殻を幼児が誤って飲み込んでしまう事故も多いのです。

日本中毒情報センターの統計によると、たばこの誤飲に関する問い合わせは、年間五千件にも及び、中毒に関する問い合わせ全体の1割以上にもなります。中でも五歳までの乳幼児の誤飲が三割以上を占めます。

たばこの吸い殻そのものだけでなく、ジューズなどの空き缶を灰皿代わりに使い、その残った飲み物にたばこの成分がしみ出した液体を誤飲すると非常に危



子どもの手に届かぬよう注意を

険です。子どもは何でも口に入れてしまいます。たばこの誤飲は気を付けていなかった大人の責任にほかなりません。

大人は子どもたちの安全を常に考えて、日常生活を送ることが大切ではないでしょうか。